

環境配慮施設の設置をきっかけに 農業と自然環境の共生へ

あらかわなんぶちいきほぜんかい
栃木県：荒川南部地域保全会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

環境配慮施設の維持管理、生きものの保全活動や観察会の実施、農業と自然環境の共生

【経緯】

平成 13 年に改正された土地改良法に環境との調和への配慮が盛り込まれ、環境配慮施設を含めた内容に事業計画が変更され、維持管理を含め環境保全を開始。その後、農地・水環境保全対策のスタートをきっかけに荒川南部地域保全会を発足し、環境配慮施設の維持管理、生きものの保全活動や観察会を実施している。



荒川南部地域保全会

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】生態系保全田んぼ、魚道、水田魚道、ワンド、カエル這い上がり工

【活用した事業等】栃木県営経営体育成基盤整備事業

【保全対象生物】ドジョウ、ヤマアカガエル、ヒガンバナ

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 環境配慮施設

①設置、補修

- ・ 魚道を設置・維持管理
- ・ ビオトープの造成・維持管理

2. 田んぼの生きものの調査の指導・実施

①田んぼまわりの生きものの調査を実施

- ・ 平成 20 年度より毎年実施

3. 餅つきなどのイベントによる交流

①収穫祭

- ・ 田んぼ公園に植えている餅米で餅つき等を実施

4. 広報活動

①会誌の発行

- ・ 数年に 1 回会誌を発行

5. その他

①彼岸花の維持管理

- ・ ほ場整備事業地域に自生していた彼岸花の移植作業及び維持管理



生きものの調査



施設の維持管理活動

○継続した活動でこんな効果が！！



ホタル観賞会

■活動を通じたコミュニティの活性化

・改良区役員が中心となり、実際に活動が続けるうちに、土地に愛着が湧き、会員同士の交流も深まると同時に、イベント等の参加者の喜ぶ顔も励みになり、活動自体も楽しく取り組めるようになった。

■活動を通じた生物保全に対する意識の向上

・会員自ら、新たな環境配慮施設の増設を提案・施工するなど、積極的な活動が発生している。
（自身が所有している田んぼに自ら「てび」を設置するなど）

※「てび」とは、中山間地域の水田で、谷川の冷たい水を直接入れない等のために水田の畦際に掘り下げられた小溝。

○課題・苦勞した点

■会員の人員不足

・会員の高齢化とともに、活動の担い手不足が課題とされている。

■活動の目的や意義の共有

・皆で協力しながら活動ができるように、皆の意見を取り入れながら活動することが大切と考えている。

○工夫した点

■主催者自ら楽しめる活動の実施

・会員のモチベーションを維持するため、毎年開催しているイベントは、内容に変化をつけるなどして主催者側も楽しめるよう努めている。

■会員間のコミュニケーションの充実

・年3回の打合せ以外にも、普段の生活のなかで、日常的に話をし、思いついたことを提案することで、色々な人の意見を生かしながら活動することを心がけている。

○活動の特徴！！

■保全活動に対する会員のモチベーション維持

・主催者である会員が楽しめるイベントの企画や、打合せを小まめに実施することで、活動のモチベーションが維持され、継続した活動に繋がっている。



○団体の概要は？

- ・平成20年度に設立され、活動エリアは栃木県那須烏山市（旧南那須町）である。
- ・任意団体で、活動人数は約150名。
- ・年間運営費は補助金のみとなっている。
- ・年間活動日数は、約65日である。

